









作品名称
『北嵯峨の家』

新築

建築面積：204.16㎡

延床面積：283.30㎡

木材使用量：70㎥
（うち京都府産63.1169㎥）

大覚寺の門前から少し西に進むと、茅葺きの屋根を持つ建物が残る田園風景の中に建つ和風の建物で、二世帯がお住まいをされるバリアフリー住宅です。風致地区の指定を受けた場所なので、建物の意匠、形態や使用する素材も自ずから伝統的な様式を踏まえたものとしています。敷地内に住宅と門そしてガレージ壁を塀と一体にして配置しその囲まれた中に庭をしつらえまとめています。

この建物の構造材には京都府産材の燻煙乾燥した杉材、桧材、そして化粧柱には北山磨き丸太、そしてチョウナハツリをした地松のゴロンボ、玄関の飾り地板には中杢の地松の無垢材を設えて、来客を迎える玄関には、西陣織のタペストリーを張付けています。和室の造作材は赤身の杉材、筬欄間、襖紙には京唐紙等昔ながらの伝統的な様式で身近な素材を選んで使用しています。入口門の庭のアプローチに台杉を植えて京都の風情を創っています。

この建物は基礎、大工職人、左官、瓦、植木職人等地元の顔の見える職人達によって建築されました。